

早生まれの不利が尾を引く可能性

社会人になって新しく知り合った人が、同じ学年であると分かったとき、親近感を感じたり、逆にライバル心が湧いてきたという経験をした人は案外多いのではないかと。小さなころから一緒に遊ぶ仲間が同級生であることが多いし、勉強やスポーツについても同級生に比べて優劣が判断されるケースが多いからかもしれない。

日本の学校教育法は、満6歳の誕生日を迎えた後の次の4月1日から、児童を小学校に通わせることを親に義務付けている。このため、4月1日生まれの児童は6歳の誕生日に小学校に入るから6歳ちょうどで1年生になる。しかしながら翌4月2日生まれの児童は、

1周回って次の年の4月1日に小学校に入るから7歳に1日欠けるだけである。

すなわち、4月1日生まれと2日生まれの小学1年生には実質1年の年齢差があるが、1日生まれの2年生と2日生まれの1年生に違いはない。それでも、1年生同士の徒競走なら同じ土俵での勝負だが、1年生と2年生を一緒に走らせるのは可哀想だと考えてしまいがちだ。それは「学年」という制度が我々の常識に深く定着しているからだだろう。

では果たして学年のように、1年ごとのグループで子供を競争させることは適切なのだろうか。労働経済学の観点から、これが子供の将来にどう影響するのか、データで検証し

苦手意識が道閉ざす

早生まれのような実質的な年齢の違いで、成績に差が出る現象を、発達心理学では「相対的年齢効果」と呼ぶ。小学1年生の時点での1歳の差は大きいですが、成長とともに1歳の差は相対的に小さくなっていく。

しかしながら、3月生まれの子が1年生のうち徒競走でビリになってしまったせいで、自分は走るのが遅いのだという意識を植え付けられてしまうとすれば、話はそう単純には片づけられない。学年ではなく、同じ月生まれの子でみれば、運動能力がすぐれているかもしれないのに、スポーツへの苦手意識が尾を引いた場合、成長とともに解消し得ない差が3月生まれと4月生まれの子の間に生まれることも予想される。

また、1年生の徒競走の成績で教師の生徒への期待が決まってしまうかも知れない。心理学の研究で、生徒のテストやスポーツの成績が、教師に期待されることで上がり、期待されなければ下がるという傾向が明らかになっており、ピグマリオン効果やゴールレム効果として知られている。

実は、プロ野球選手には4〜6月生まれの人が多い。「バレーボールガイド」ホームページの記事 (<http://www.volleyball.grip/hayamare.htm>) に「1987・2003年時点なので、生まれ月による学歴差の存在はほぼ確実にいえる。」

念のため断っておくが、この結果はあくまでも平均的な傾向を表しているだけだし、ましてや早生まれの子供が能力的に、他の子供より劣っていることを意味してはいない。学年という制度の枠組みが、彼らに自身の発達の違いによって不利な条件での競争を強いている可能性がある」と指摘しているのである。

そして、こうした早期教育の段階での後れが、中学生になつての学力テストや、成人後の学歴にまで響いているかもしれないわけである。

もうひとついえば、名門小学校、中学校の生徒の生まれ月が偏っていないかを調べるといった作業も必要だろう。そこでも生まれ月による有利・不利が確認されるようなら、本人には選べない要素によって人生が左右されてしまうわけだから、何らかの対策を考える必要がある。実際、東京の名門私立小学校である慶応幼稚舎は、生まれ月による有利・不利がないよう、生年月日順にグループに分けて、入学試験を行っているとしている。

幼い頃の苦手意識がその後まで影響するとすれば、低学年の生徒を競争させるときには不公平がないように慎重な配慮が必要である。早生まれが不利になる可能性を考えれば、生まれ月3カ月ごとにグループを作つて徒競走をさせたり、偏差値を計算したついでいいわけである。学年という制度を絶対視する必要はなく、柔軟な運用を考えていくべきではないだろうか。



同年の子供のなかで、実質的な年齢の低い早生まれは不利だが、その悪影響は将来にも及び可能性がある。



同じ土俵での勝負するには

補正待ち

で生まれ月が4〜6月のプロ野球選手が284人いたのに対し、早生まれの1〜3月の選手は118人と半分以下だった。別の研究では、Jリーグの選手にも同様の傾向がみられたという。これは小学校の低学年で4〜6月生まれの子供が、早生まれの子に比べて体格的に有利で、その幼児期の成功体験が刷り込まれ、野球やサッカーを続けるかどうかの判断や、本人の自信に影響を与えるためではないかと考えられている。

その傍証として、同ホームページでは中卒後に競技を始める競馬(JRA)のジョッキ1の生まれ月も調べているが、4〜6月生まれの子が19人しかいないのに、1〜3月生まれは62人もいた。本当は身体能力が高いのに、野球やサッカーといった小さいときから始めるスポーツでは振るわなかった人がジョッキーになることを選んでいるからかもしれない。

それでは、4〜6月生まれが有利であるという現象は、学力の面でも観察されるだろうか。この点を調べるため、国際教育到達度評価学会が03年に実施した国際数学・理科教育動向調査(TIMSS2003)の匿名標準データをを用い、日本の中学2年生約95000人の数学と理科の偏差値を生まれ月の集団ごとに集計してみた(図1)。理科、数学とも4〜6月生まれの平均偏差値は50.4であるが、1〜3月生まれの平均は48.7と差があった。

図1 生まれ月と中学2年時の学力

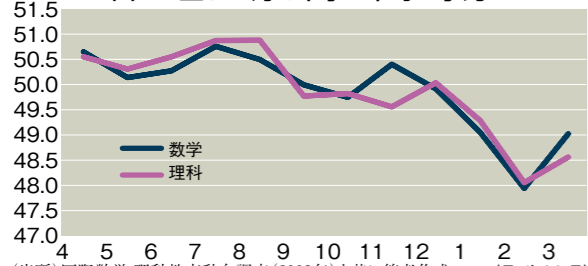
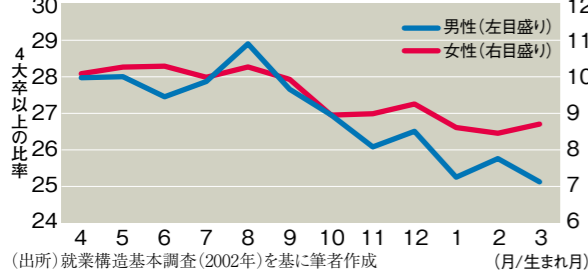


図2 生まれ月と最終学歴



(出所)就業構造基本調査(2002年)を基に筆者作成